



迎春

令和6年を迎え、新年のお慶びを申し上げます。
また、皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。
新しい年の始まりです。新年にふさわしい、ぐっと心にせまってくる、
「茨木のり子」(1926-2006 詩人)さんの詩を紹介させていただきます。

「自分の感受性くらい」

ばさばさに乾いてゆく心を ひとのせいにはするな
みずから水やりを怠っておいて
気難かしくなってきたのを 友人のせいにはするな
しなやかさを失ったのはどちらなのか
苛立つのを 近親のせいにはするな
なにもかも下手だったのはわたくし
初心消えかかるのを 暮しのせいにはするな
そもそもが ひよわな志にすぎなかった
駄目なことの一切を 時代のせいにはするな
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ
子育ては美しき戦いです。「程よい子どもとの距離感」に悩んだり、忙しくて何を悩んでたのかもわからないのが悩みであったり。それぞれ悩む中身は違っても、子育てに一生懸命であることに誇りを感じてください。自分の感受性を自分で守っていける子を育てられるようにと願って、心ばかりのアドバイスを送ります。

- (1) 子どもは叱ることも褒めることも両方大事です。
子どもの成長を願って叱るのは親の勇気です。この勇気がなければ子どもは社会を学びません。
- (2) 親自身の感情のコントロールは大事です。
「自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ」という言葉には含蓄があります。互いに努力していきましょう。

(3) 子どもの言っていることが自己主張かわがままか。その違いは「自分の気持ちを伝えるときに相手の気持ちを考えているか」ということにつきるのではないのでしょうか。

園長

